

## 45 【むだづかい】

あるとき、何気なく、懐爺がこんなことをいいました。

「金ちゃん、駄菓子屋にいくとさ、最初は、飴玉（あめだま）一個買うつもりでいくんだけど、駄菓子屋につくと、どういうわけか甘納豆（あまなっとう）もほしくなって、お金があまると、ついつい買ったりするでしょう」

「あたりまえじゃ、うまそうだからのう。あたりまえじゃ、ぜにがあまるんならのう」

「やっぱりね。わたしは金ちゃんのお母さんから、まえに相談をうけていました。このごろ、金ちゃんったら、【むだづかい】にとりつかれてやしないかって」

「むだ、たあ、なんじゃ。ほかのかし、かうの、むだなんか」

「無駄ですね。なぜって、飴玉をなめてから甘納豆をたべても、甘納豆だけをたべるよりは、おいしくないでしょ」

また懐爺の屁理屈だとおもったが、がまんしました。

なぜがまんしたかというと、その【むだづかい】とやらが、おばけらしいから。

「たいしたおばけじゃないのう。つまらない、くだらない、こわくない、ききたくない」

それは嘘で、ほんとにおばけなら、ききたい。

「いえいえ、これがたいしたおばけで、だいたい【なんとかづかい】というおばけは、みんなたいしたおばけです。【へそづかい】は、へそがしゃべるおばけ。【さるづかい】は、さるをつかってだますおばけ。

【くるぐるづかい】は、狂った女の子を見せ物にするおばけ。わたしはむかし、【くるぐるづかい】を、よくみかけました。何ということでしょう何ということでしょう。これはいけないこれはいけない、こんなことはゆるせないこんなことはゆるせない。わたしがおばけ退治をはじめたのは、【くるぐるづかい】をみたのが、きっかけです。いずれにしろ、みんな、何かをつかって何かをやる、ずるいおばけたちです」

懐爺は、何やらおこっています。

ここは、同調するところです。

「けしからんのう。【むだづかい】は、むだをつかって、むだをやるおぼけかのう」

「さすがは金ちゃん、大当たり」

「うれしくないのう」

「賞金（しょうきん）無しですからね。無駄づかいはしない」

「へそも、さるも、くるぐるも、みえるけんど、むだはみえんのう」

「ほら、金ちゃんの背中にはりついている、ねばねばのもの、くさいもの。納豆（なっとう）ではありませんよ。うんこでもありませんよ。そいつが【むだづかい】」

ががが

ぎぎぎ

ぐぐぐ

げげげ

ごごご

うめいだけで、吐いたりはしませんでした。

「わしの、せなかに、くされ、かい、かい」

ぼくは背中をみたいが、みられない。

「かい、かいじい、わしの、せなかの、くされ、はがして、くれや」

ぼくは、さかんにせがみます。

「これは簡単（かんたん）じゃありませんよ」

「かんたんじゃねえから、かいじいにたのんどるんじゃ」

「なるほど、なるほど」

懐爺は、何かをやってくれそうで、何もしない。

「なんとかせえや、かいじい」

「無理です。無駄と無理は似ています」

「そんなこと、するかい」

「このくされは、このねばねばは、簡単じゃありません」

「たのむぞい、あげるぞい、わしのちょきん、みんなあげるぞい」

「やっぱり、無理でした」

「わけを、いわんかい」

「【むだづかい】は、金ちゃんの背中に、はりついているのでは、なかったのです」

「どういう、いみじゃ」

「金ちゃんの背中そのものが、【むだづかい】だったのです」

ががが

ぎぎぎ

ぐぐぐ

げげげ

ごごご

いちおう、うめいてみせましたが、うめいてばかりでもどうしようもないので、

「ばかばかしい」

と捨て台詞（すてぜりふ）をのこして、ぼくは帰りました。

あれから半世紀以上経ったいまでも、【むだづかい】は、ぼくの背中そのものであります。